

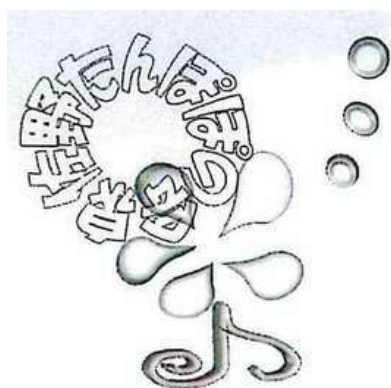


社会福祉法人
泉佐野たんぽぽの会
令和2年度事業報告

令和2年度 社会福祉法人たんぽぽの会

永年勤続15年 野口美幸

社会福祉法人泉佐野たんぽぽの会ピュアステーションたんぽぽ所属





居宅介護支援事業所

令和2年度事業報告

【令和2年度 ケアプランセンター泉佐野たんぽぽ 事業報告】

令和2年度 事業運営目標

利用者の自立支援、情態悪化の防止の為に

計画的、総合的に支援をおこなっていく

○在宅生活継続への支援

現状のサービス量では支えきれない利用者に対して、早期に区分変更の申請を行い、利用者・家族が安心して在宅生活が継続できるように支援を行った。

○質の高いケアマネジメントを行う為に

今年度はコロナの関係で研修等はほとんど中止になりスキルアップが出来なかったが最後にリモートでのオンライン研修という新しい形での研修参加が出来、次年度に向けての、ケアマネジメントにたいして研鑽する事が出来た。

○利用者の尊厳を守る

利用者や家族の意向に沿ったケアプラン作成を目指し根拠となるアセスメントをしっかり行う事に努めた。カンファレンスで決定するサービス内容の確認を充分行うことで、利用者の意思や人権を尊重したサービス提供となるように心がけた。

居宅介護支援費提出状況（要支援を除く 要支援 約 5件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
件数	25件	23件	18件	18件	18件	22件
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	21件	21件	22件	22件	24件	24件

令和2年度 新規・相談

4月9日	I氏より退院後のケアプランの依頼を受ける、4月17日退院され担当となる。
4月18日	貝塚市在住Y氏より住宅改修の相談、手続きを行なう。
5月25日	貝塚市中央包括支援センターよりH氏のケアプラン依頼され受諾する
6月10日	Y氏退院後サ高住へ入居したいとの相談、入居後も担当の依頼を受ける。
6月23日	Y氏入居先施設より区分変更申請の相談、現在の介護度ではサービス提供困難との事なので変更申請行なうことになる。
7月7日	事業所より、利用者様のサービス提供の充実の為区分変更の相談あり、申請を行うこととなる。
7月14日	U氏様より福祉用具貸与の相談あり手続き行ない、担当となる
8月13日	利用者様家族より退院後施設入所の相談、資料等検討し見学行ない決定する。
9月10日	ケアプランセンターインテフィールより利用者様の引継ぎ依頼あり受諾する。
9月14日	知人家族のデイサービス利用の相談、体験から利用へと繋ぎ担当となる。
10月16日	利用者様施設入所か在宅生活継続かの相談、サービス検討し在宅継続となる。
11月5日	しんいけ地域包括Y氏より引継ぎ、12月より福祉用具貸与を利用。
11月25日	K氏ご家族より相談、デイサービス利用したいとの事、体験行い利用となり担当となる。
12月1日	利用者様、要支援から要介護となり事業所変更の相談、事業所選択し利用となる
12月25日	現在入院中であるが利用者ご姉妹より新規相談。認定調査立ち合い担当、福祉用具貸与利用となる
1月5日	認定調査立ち合い行ない担当、福祉用具貸与利用となる。
1月15日	ケアプランセンターあおぞらO氏より熊取町N氏の引き継ぎ依頼あり受諾。
1月27日	要支援の方のデイサービス利用の事業所提案、体験され利用となり担当となる。
2月1日	住宅改修の利用者様より有償送迎サービス利用の相談、よりそい担当者に引継ぐ。
2月17日	しんいけ地域包括Y氏よりI氏引継ぎの相談、受諾する。
	20件の相談により新規14件となりました。

【令和2年度 参加した研修】

2020・8・25 地域包括支援センター開設説明会 社会福祉協議会

2021・2・9 泉佐野市認定調査員研修 泉佐野市役所

2021・2・16 介護保険改定研修 前編 オンライン

2021・2・19 介護保険改定研修 後編 オンライン

本年度はコロナの関係で通常の研修が行えませんでした、次年度はコロナ感染症が収束される事を願うばかりです。

令和 2 年度利用終了者

5 月 K・N 様永眠

8 月 H・K 様永眠

9 月 K・Y 様永眠

1 月 A・N 様永眠

1 月 K・Y 様施設入所

2 月 Y・N 様永眠

以上 1 名の方が入所 5 名の方が永眠されました。



訪問介護事業所
障がいサービス事業所
福祉有償事業所

令和2年度事業報告

令和2年度 事業報告

ピュアステーションたんぽぽ
福祉有償運動よりそい
たんぽぽメロディー

年間目標	知識と実践を繋ぎあわせる、もう一步の力を養う！
------	-------------------------

令和元年度 事業計画		
スキルアップ	連携の強化	管理体制
① ピュア勉強会（伝達研修） ② マニュアル作成と見直し ③ 自己覚知（自己評価） ④ 月間目標 ⑤ エルダーメンター設置 ⑥ リスクマネジメント委員設置 ⑦ 安定した報告・伝達体制 ⑧ サ責のスキルアップ体制	⑨全体ミーティング ⑩常勤会議 ⑪ケース会議の強化 ⑫ザ責・常勤の全利用者の把握 ⑬個別相談時間を設ける ⑭緊急連絡網・緊急カード 緊急SETの作成と見直し ⑮緊急SETの活用	⑯書類の整理 ⑰管理者不在の報告体制 ⑱勤務指定表・管理表作成 情報提供 ⑲ピュア便り作成と配布 ⑳職員用便り配布

スキルアップ

① ピュア勉強会（伝達研修）

月日	内容	担当
4月 在宅ワーク	脱水・熱中症 早めが何より重要 ・在宅ワークにて、振り返り問題を提出	岸本
	脱水症を予防することが熱中症対策に繋がる。 体内に水分をためておく場所である筋肉量が減るため、 脱水症を起こしやすくなるのです。	
5月 在宅ワーク	リスクマネジメント【脳卒中かそうでないかを意識！】 ・在宅ワークにて、振り返り問題を提出。	岸本
	訪問時に緊急対応が求められる場面に遭遇したら・・・ 緊急時のチェックポイント、F、A、S、T脳卒中对応の基本 医療的知識として、JSTやトリアージを知ろう！	
6月 在宅ワーク	感染症・食中毒 ・在宅ワークにて、振り返り問題を提出。	野口
	食材の管理保存方法・保存期間の目安を食材別に検証する。 期限が切れても腐っても捨てるが出来ないのはなぜか？ 利用者の過ごした時代の背景からも考える。	
7月 24, 29, 30 金 水 木	人権・倫理【法令遵守】 10:00～ 15:00～ 19:30～	

	介護職に持たれるイメージはどのようなイメージなのか？ 品行方正を求められがちですが、私生活に直面するからこそ 大きな責任が伴う私たち介護職に最も近い法令を理解しよう	岸本
8月 在宅ワーク	高齢者虐待【声なき声を聴く】 在宅ワークにて、振り返り問題を提出	野口
	私たちの声が聞こえますか、より誰もがいつかは老い、また ある日突然重い障害を抱える可能性がある。将来、超高齢社会がや ってくるなかで、考えてほしい…自分自身の問題として。	
9月 23, 24, 25 金 水 木	肝臓の動き 10:00 13:30 15:00 19:30 各1時間	岸本
	透析を受ける方の介護に携わる私たち。 透析を受けなければならない理由、知っているようで言語化できな いため、基本から学ぶ。	
10月 28, 29, 30 水 木 金	透析 10:00 13:00 14:30 19:30	岸本
	透析の流れ、機械の仕組み、バスキュラーアクセスの種類 突刺から止血、副作用までを知って理解しよう。	
11月 在宅ワーク	冬季感染症 在宅ワークにて、振り返り問題を提出	前田
	免疫力の低下を防ぐ為に…。 気温と湿度の低さは、冬の感染症が流行りやすい理由の一つで、 感染予防対策8か条等を学ぶ。	
12月 23, 24, 25 水 木 金	バリテーション 10:00 13:30 15:00 19:30 各1時間	野口
	定義、原則、基本的テクニック、基本的態度の流れで学ぶ。 一人でもいい…心から共感しあえる人が存在すること。人にとっ てこれ以上重要なことは他にないのではないか…。	
1月 在宅ワーク	接遇 10:00 13:30 19:30 各1時間	岸本
	チームケアで介護力を高める。 理想的なチームの在り方、本来のサービス担当者会議の在り方、 医療職と福祉職の専門性の違い、訪問介護の専門性を学ぶ	
2月 在宅ワーク	個人情報 ・在宅ワークにて、振り返り問題を提出。	岸本
	事例とともに、自己覚知を行なうことで誰でもなく自分自身が他者 の個人情報にどれだけ関与しているかを再確認する。当事者やご家 族に患わぬ不利益がかからないよう意識を高めるように心がける。	
3月 在宅ワーク	心を探そう【私たちの『相手』は『人』です！】 ・在宅ワークにて、振り返り問題を提出。	岸本
	必死で気持ちを伝えたいのに、何を言っても届かない。利用者様が 少しでもそんな思いを感じることはないように、一言の背景に隠さ れた本心をゆっくりと引き出せるような…そんな環境を作るため に…。	

反省点と課題

※勉強会に関しては、質の向上からレベルを引き上げて実施しております。理事長に『思いだけでは大切な人を救うことが出来ない』と教えられ、福祉、介護には、高い倫理感を求められるんだと実感いたしました。今年度、事例とともに進めてきた勉強会を基盤として、来年度は専門職としての言動を心がけるよう努めて参ります。

次年度年間予定

勉強会計画

	担当	内容		担当	内容
4月	岸本	人権・倫理 感染症対策研修	10月	前田 岸本	個人情報 感染症対策研修
5月	野口 岸本	身体介護実践 感染症対策研修	11月	岸本	白内障 感染症対策研修
6月	岸本	生活援助 感染症対策研修	12月	岸本	虐待 感染症対策研修
7月	岸本	認知症：ユマニチュード 感染症対策研修	1月	岸本	訪問介護のグレーゾーン 感染症対策研修
8月	岸本	接遇 感染症対策研修	2月	全職員 岸本	在宅あるある困ってます 感染症対策研修
9月	野口 岸本	リスクマネジメント 感染症対策研修	2月	全職員 岸本	在宅であるあるこれって便利 感染症対策研修

② ニュアル作成と見直し

反省点と課題

マニュアルをピュア独自の統一された基本として、サービスの内容が概ね統一されてきました。ここから、個々の利用者に適応するためには、少しずつ変更するところもございます。その変更した部分の共有がいかに職員に伝達できているかで、対応のスキルも変わります。来年度は、職員の共有に力を入れて参ります。

③ 自己覚知 [自己評価]

反省点と課題

自身の行動の把握がどこまでできているかを把握することが大切です。キャパシティを知ったうえで、より一層自他ともにリスクを軽減できます。

④月間目標

月	目標
4月	故きを温ねて新しきを知る以て師と為るべし～孔子～ 今までの習慣がベストではなく、だからと言ってすべてが悪いわけでもない。 古いものの中に、新しいものを見出して自分の知識にできると素晴らしい。
5月	和を以て貴しと為す～聖徳太子～ 十七条憲絵の第一条に登場する青嵐意見が食い違うことがあっても お互いを尊重する心遣いを大切にしましょう。
6月	葉の為には枝を枝の為には根を養え～渋沢栄一～ 葉は枝から、枝は根から栄養をもらって成長します。基礎に栄養を！きっと大きな木 が育ちます。
7月	おもしろきこともなき世をおもしろくすみなしものは心なりけり～高杉晋助（上）野 村望展尼（下）～ 気持ち一つで自分の世界を変えることが出来る。すべては自分の心 ひとつである…ということに
8月	絶対絶対はない～織田倍長～ 絶対がないとあきらめたり、絶対に大丈夫と油断したり、どちらも良いとはいえない。 常に予測を立てて最善を尽くすことが大切です
9月	偶然は準備のない者を助けない～パスツール～ チャンスとは、当たり前のように来ません。今がチャンスだと気付くためにも 困らないよう、常に準備をしておくことが大切です。
10月	先へばかり目を向けるのが抑もの迷い。偶には足元を見ては何か～二葉亭四迷～ 気の焦りで時間を無駄にせず、一つひとつ、確実に問題を解決しましょう。 それが困難なら、理由を考えやり方を変えなければならない。
11月	歩け。歩け。つづけることの大切さ。～伊能忠敬～ 行く先が見えないのではなく、目標を定めて歩きましょう。 果てしなく感じる道もあきらめなければゴールは必ずあるのです。
12月	知って行わざるは、知らざるに同じ。～貝原益軒～ 良いことを知っていても、行動に起こせなければ意味がないのです。 後回しにしないで、すぐに行動に移してみましょう。
1月	シンプルなものがいちばん洗練されている。～レオナルド・ダ・ダインチ 無駄なことを止める勇気を。洗練された行動を。 自身の行動を客観視してみましょう。
2月	人間の為すべきことは何でもできる。～大隅重信～ 自分にはできない』とあきらめないうで努力することが大切です。
3月	知空合一～王陽明～ 知識と行動は表裏一体であり、知と行は合致していなければならない。

反省点と課題

毎月の月間目標の達成度は、職員個々の意識的なものです。

毎月のミーティングでは、目標の意図を伝え、イメージをしやすいようにします。

『心がける』ということ念頭に置いておくことが必要なため、継続して行なって参ります。
スキルの向上は、あらゆる方向性を意識する積み重ねで成り立つものだと実感しております。
来年度も 意識の幅を少しでも広げていけるよう、 努めて参ります。

⑤エルダーメンター配置／新人教育及び指導

※今年度のエルダーメンター委員としての活動

反省点と課題

昨年と変わらず、偶数月の金曜日に時間を決めて行ないました。令和2年度は、職員一人ひとり面談を実施し、個々に感じるものや意見をまとめて、一つひとつ解決できるように努めました。職員の声を実際聞かせていただくことで、今後職員が一丸となってどういった方向性で進んでいくのか、 になりました。

⑥リスクマネジメント委員配置／気づきと発見の指導

チームで取り組むリスクマネジメント2年目

- ① 1年目よりも内容を重視し、必ず全員が意見できるように心がけた。
- ② 今までの経験を言葉にすることで、気づきの視点が広がった。

ピュアステーション独自のものを作っていきたい…再度、視点を変えて実行。

- ① 半期ごとに常勤職員をリーダーとしてチームを結成
- ② 担当の有無を問わず提案された気づきやヒヤリハットたは困っている内容等を検討
- ③ 利用者様の意思を最大限に尊重し、方向性を見出す
- ④ 経過を追いながら、重要な内容を迅速にまとめていくことが出来る
- ⑤ 職員の協力関係から築けるコミュニケーション
- ⑥ 個々の視点を重ねあう会議
- ⑦ 経過や結果の共有
- ⑧ マネジメントに携わることで、他のチームの内容にも力が入る

反省点と課題

令和元年度に開始したところ、プラスアルファの業務にもかかわらず、一生懸命取り組みされていたので管理者だけの判断ではなく、全職員で検討し他者の気づきの視点到触れていただきました。リスクマネジメント委員として先に、気づきの視点をさらに考慮した方がよい視点、今後の方向性等をまとめ、各グループのレポートとともに全職員へ配布し、投票権も作成しました。意見や感想を項目別に人ひとり真剣に向き合い、良かったと感じたグループに投票していただきました。努力と評価が自分たちによって形にできることで、見えるリスクマネジメントを実感できました。

		リーダー	メンバー
上半期	Aグループ	前田（7月末まで西川）	飯田・岡林・河原・左農・山根
	Bグループ	野口・井上（奈）	安部・井上（友）・経谷・峰・宮本
	Cグループ	宇賀・酒井	西出・橋本・南・山添・山野
※退職された職員は除くためメンバーが交替しております。			
下半期	緊急事態宣言等でチームで検討する期間が短く、焦って提出する内容にメリットを感じられないと判断し、令和3年度の上半期まで延長いたしました。上半期同様①テーマを決める⇒②検証する⇒③意見交換⇒④実践⇒⑤検証⇒⑥意見交換⑦実践⇒⑧レポートにまとめる⇒⑨リスクマネジメント委員評価⑩全職員評価⇒⑪投票結果 といった流れになります。		

R3年度チーム編成	
野口チーム	飯田・井上（友）・橋本・山根
前田チーム	経谷・佐農・山野・峰
井上・宇賀・酒井チーム	岡林・山添・西出

⑦安定した報告体制／特定事業所加算Ⅱ

反省点と課題

常に報告内容の見直しをかけ、連携を図るようにしました。サービス提供責任者の指示を含め一括して把握できる状態が、迅速な対応に繋がりました。継続することは容易なことではないですが、明らかに利用者様へのプラスとなっていると実感しております。合わせて、ケアマネジャーとの連携も職員からサービス毎に送られる報告内容で、即伝達できることもプラスとなってきました。来年度もさらに内容をアップして努めて参ります。

⑧サービス提供責任者のスキルアップ体制

反省点と課題

サービス提供責任者の業務内容を把握するため、前日に次の日の予定を報告とともに空き時間に5分～10分で申し送り時間を設定しました。早急でないものについての報告を設定した時間内で受けることで、書類や訪問時間を組みやすく、計画立てた業務に取り組むことが出来るようになりました。サービス提供責任者の業務は、いかに時間をうまく使えるかです。仕事の回せる力は、スキル向上に繋がって参ります。来年度も計画的に業務の遂行が出来るよう努めて参ります。

連携の強化

⑨全体ミーティング／1回／1カ月（勉強会の日程と合わせる。）

	ミーティング内容
4月	勉強会年間予定、年間行事、報告内容のポイント、土地・建物購入、コロナ緊急体制について
5月	緊急体制中の状況共有、スキルアップ体制、リスクマネジメント開始等
6月	新人職員の入社と退社について、人材紹介での人材確保について
7月	緊急体制中の連携と反省点の振り返り
8月	リスクマネジメント委員へレポート提出、今後の業務体制
9月	リスクマネジメント上半期まとめ
10月	定年退職の年齢の引き上げについて、エルグーメンター委員より、個々の面談実施
11月	介護保険制度の盲点や市役所でのヒアリング結果、返戻の原因と対応
12月	年末年始の対応、職務の責任、安定しない人材について
1月	利用者数減少についての原因と対応、緊急体制開始
2月	新型コロナウイルス情報収集と臨時の利用者対応
3月	新型コロナウイルス情報収集と臨時の利用者対応、全職員下半期の振り返りと来年度の体制

⑩常勤会議／1回／1カ月

反省点と課題

常勤ヘルパーが携わる利用者様の介助で現状困っていることなどを中心に、実践研修を行ないました。基本から応用まで実力が伴うと、自信に変わります。経営の状況や今後の方向性を含め、各自の稼働の見直しやスキルの向上を中心に、お互いの気持ちも話し合いながら進めたと実感しております。来年度も、それぞれの力を最大限発揮できるよう努めて参ります。

⑪ケース会議の強化／全職員1回／1カ月参加

反省点と課題

職員中心の会議となりますが、ケース会議にはどうしても利用者様の偏りが見られました。職員の派遣人数が多い利用者様の回数が多くなるということもありました。来年度は、実施の有無を把握するため、チェック項目表に利用音名を記入し、均等に行なわれるように努

⑫個別相談時間を設ける／全職員／必要時

反省点と課題

定着を図るためエルグーメンターとリンクさせて、偶数月の毎週金曜日に実施しております。

10月にピュア・メロディ・よりそいの全職員の面談を実施いたしました。一人ひとりの思いや仕事に関する取り組み方を把握でき、事業所に対しての意見もいただきました。人材が少なくなる一方、に思ってくださいる職員に感謝いたしました。

⑬緊急連絡網・緊急カード・緊急 SET の作成と見直し／
独居利用者緊急連絡網作成及び見直し

⑭利用者宅用の緊急 SET の活用／全利用者

反省点と課題

昨年に学んだ緊急対応時に必要な情報に関し、担当職員の認知度で迅速さに影響がでることから、常にサービス提供責任者から報告を通して、赤ペン等でラインを引き、指示をその日のうちに伝達するようしておりました。朝のサービスで変化がみられる場合、昼の担当者に様子を直接連絡するようにし、連携を図りました。緊急セットも全職員で意識し、内容変更があればリー方式で早急対応をおこないました。来年度もこの方法で実施して参ります。

管理体制

⑮書類の整理／最新内容に変更

毎月行なう、常勤ミーティングにて書類の進捗状況を行なうが、変化がない場合書類にかかる時間を設定し、相談室へ移動後、集中して作成に取り掛かるよう努める。管理者は、サービス提供責任者の作成する書類すべてに目を通し高齢介護課の実施するヒヤリングに対応できるように努める。

反省点と課題

ミーティングやサービス提供責任者会議等で、書類の進捗状況を確かめます。遅れる書類に関し、原因を考え集中的に作成できる環境を整えます。人材確保が困難な状態で、非常勤が休むとなると、サービス提供責任者の現場稼働が増えますが書類作成も業務の一彥なので並行して行えるように配慮して参ります。

⑯管理者不在の報告体制／業務日誌

緊急体制にて事務所へ入れないこともあり、各自記入し提出という業務日誌の形態を変更した。管理者不在時は、24 時間携帯で対応を行ない、連携をはかるよう努めた。

⑰勤務指定表・勤務管理表作成／常勤・登録ヘルパー

サービス時の派遣漏れが無いよう、必ず臨時休日ノートに目を通し派遣漏れを防ぐとともに、派遣未定があれば、担当サービス提供責任者に伝えるか、状況に応じて派遣を行なうよう努めた。

⑱ピュア便り /利用者へのお便り

反省点と課題

利用者様も全体に高齢化しており、お便りを読まれる方も少なくなっておりますが、楽しみに待っていただく方もおられます。特定事業所加算Ⅱ、処遇改善加算Ⅰ、特定処遇改善加算Ⅰを取得するにあたり、利用者様負担も大きくなります。それだけの取り組みを実施しておりますが、その内容を利用者様に届ける唯一の方法が『ピュア便り』だと考えております。緊急時の連絡先や年間・月間目標、勉強会の取り組みや漢字クイズ等、しっかりアピールをすることで、『安心して任せられる』という思いを利用者様に感じていただけると実感いたしました。来年度も引き続き実施して参ります。

令和2年度を振り返って

コロナ感染症に対して、事業所の緊急体制を実施いたしました。

サービス提供責任者、常勤ヘルパー、非常勤ヘルパー、運転手、それぞれの稼働方法が違うため、その立場に視点を置き換え、指示を出ささせていただきました。

全く初めての状況に、職員の戸惑いも見られましたが協力を得ることができ、嬉しく感じました。一度目の緊急体制の振り返りをすることで、二度目の緊急体制がよりスムーズになりました。

感染の蔓延防止に対し、全職員に不要不急の外出を控えることと、感染対策の強化徹底を重視することで、職員からの体調不良の訴えがほとんどなかったことにも改めて感謝いたしました。

『もし、自分が感染源になったら…』というシミュレーションを行ない、いかに自他ともに守れるかをミーティングや報告メールを通して、日々伝えました。いつ、誰が、どこから、どのように感染するかわからない状況中、職員の意識の高さに感心させられました。

もう一つ、利用者数の減少のスピードにも驚きました。入院されると自宅へ戻られる方が少ないことに、その原因を見出し入院⇒施設入所に至る前の段階で、気づくことが必要だと感じました。利用者様の体調管理、食事の栄養バランス、衛生的な環境のすべてを再度見直し、サービス内容が的確なのかをケアマネジャーを中心に他職種の連携を図ることが重要だと感じました。来年度は訪問介護の専門職として利用者様の立場に立ち、意見を伝えることが出来るよう精一杯努めて参ります。

令和3年度の年間目標
専門性を意識した言動を心がける

ありがとうございました



グループホーム

令和2年度事業報告

令和2年度 事業報告(事業所名:グループホームやすらぎの里)

目標 QOLの向上 尊厳ある暮らしのケア

～くらしの中の言葉を残すことによりいくつになっても自己実現できる環境を提供する～

目標に対して6つの施策を立案しました。

- ① 健康管理の徹底
- ② 職場研修管理の推進
- ③ 自己覚地の合理性を高める
- ④ 若年認知症支援
- ⑤ 地域密着にて社会3か
- ⑥ 社会啓発活動

①健康管理の徹底

A:毎日バイタルサイン測定

バイタルサイン測定(火曜木庸み訪問看割市による測定)。
バイタルサインの異常値測定時は、必要に応じて数回測定を行った。
危険を予測する時は、必要に応じて定期測定を行った。
コロナ感染対策にて非接触式体温計を導入した。
精密な自動血圧測定器を導入した。

B:日常生活の観察により異常の早期発見

少しの変化にも気付けるように、見落としそうな観察ポイントは、日誌に観察事項を付け加え、色別マーカーを使用して毎日の申し送りに口頭で伝えるように行った。
さらに、見落としそうなポイントに気づけば、ホワイトボードにも書き込み、毎日の朝礼で読み上げるようにした。
通信器具を使用して、日報を毎日、共有した。
早期発見に、気づくことのできた事例は、常に、全スタッフで共有し、観察ポイント、報告ポイントの視点のスキルアップを努めた。

C:口腔体操にて嚥下機能の強化

口腔体操施行。
口腔体操困難な入居者さまは、口腔マッサージを行った。

D:他職種とのチームケアの強化

ケアマネ・介護職一訪問看護師・訪問リハビリ・鍼灸マッサージ師・歯科医・歯科衛生士・主治医と連携をとりあい、入居者さま中心の介護の提供が行えた。

9月より、訪問看護ステーションを、笑みくる訪問看護ステーションに変更した。

訪問看護ステーション変更の経緯

認知症のBPSD行動心理症状が強い入居者さまが、6月に口唇がんと診断された。抗がん剤治療により食事をほぼ食べれなくなった入居者さまに対して、点滴にて栄養補給を依頼した。しかし、本人が拒否をするという理由により、訪問看護ステーションより、点滴を拒否された。結果、入居者さまは、入院を余儀なくされたが、入院によって改善されることは何もなく、最終は、病院もお手上げということで、ホームに戻ってきた。ホームへ戻るにあたり、BPSD行動心理症状が強い入居者さまでも、共に守っていただける訪問看護ステーションへ変更した。結果、入居者さまは、また、元気な姿に戻っていただいた。

E:主治医との報告・連絡・相談の徹底

時間外でも、携帯電話でのやり取りができる環境で安心もできた。

F:尊厳あるエンドオブライフケアの実践

令和2年度は、1名の看取りを行った。やすらぎのさと最年長105歳の入居者さまの看取りは、1週間、家族さまも一緒にケアを行った。アロマケアも取り入れ、2時間毎に顔拭、口腔ケア、4時間毎に、陰部清拭も行った。看取る1日前は、家族さまと外気浴もしていただき、家族さまより『まるで母と宴会をしている気分になれた』とお言葉をいただき、最期の最後まで、安らかに過ごしていただいた。やすらぎのさとを象徴する看取りとなった。

③ 職場研修管理の推進



A: OJT・Off-JT・SDS以上3つの形態で実施する

	OJT	Off-JT	SDS
4月	介護予防	新型コロナウイルスのウソ、ホント	振り返り
5月	食中毒		振り返り
6月	リスクマネジメント		振り返り
7月	コミュニケーション		振り返り
8月	AEDの使い方と心肺蘇生		振り返り
9月	倫理・法令遵守		振り返り
10月	権利擁護		振り返り
11月	笑う門には福来る		振り返り
12月	自律神経		振り返り
1月	冷えの予防・三つの首 振り返り		振り返り
2月	エンドオブライフケアマニュアル更新		振り返り
3月	認知症・知っておきたい基礎知識		振り返り

B：グループホーム独自の委員選出

レクレーション委員.....中野

研修委員.....三輪

ヒヤリ・苦情委員...香川

身体拘束廃止委員...佐々井

C：グループホーム独自の年間研修計画立案遂行

4月	お花見	4日	イースターエッグ	12日
	たんぼぼ横丁	中止	スティホーム週間 #コロナに負けるな	26日
	入学祝	6日	昭和の日	29日
5月	恋の日	1日	コロケの日	6日
	夏も近づく八十八夜	2日	母の日	10日
	憲法記念日	3日	お茶漬けの日	17日
	みどりの日	4日	伊達巻の日	24日
	端午の節句	5日		
6月	梅甘酢作り	13日	認知症講座（長南公民館）	26日
	出張カフェ空	16日	夏越しの祓い	30日
	父の日	21日		
7月	七夕会	7日	土曜の丑の日	21日
	お神楽参り	10日	海の日	23日
	オンラインファッションショー	18日	スポーツの日	24日
	山梨桃の日	19日		
8月	山の日	10日	ハッピーサンシャイン	30日
	花火大会	21日		
9月	敬老の日	21日	運動会	28日
	秋分の日	22日		
10月	お月見	1日	音楽会	18日
	ピクニック	3日	ハローウィン	31日
	出張カフェ空	6日		
11月	夜間対応町内防災訓練	1日	勤労感謝の日	23日
	文化の日	3日		
12月	出張カフェ空	2日	お餅つき	27日
	西田先生お誕生日	15日	大掃除	30日
	冬至	21日	歳神様のお迎え	31日
	クリスマス会	24日	忘年会	中止
1月	お正月	1-3日	成人の日のお祝い	15日
	七草粥	7日	アーモンドの日	23日
	十日戎			
2月	節分	2日	バレンタインデー	14日
	建国記念日	11日	天皇陛下のお誕生日	23日
	出張カフェ空	17日		
3月	ひな祭り	3日	春分の日	20日
	ホワイトデー	14日		

黄色枠は



グループホーム単独ではなく地域の方々との交流があった行事

☆研修委員

(A : OJT・Off-JT・SDS 以上3つの形態で実施するを参照)

☆リスクマネジメント

毎月の気づき-事故件数

4月	気づき 62件 事故 1件	5月	気づき 46件 事故 2件	6月	気づき 51件 事故 0件
7月	気づき 41件 事故 2件	8月	気づき 35件 事故 0件	9月	気づき 40件 事故 0件
10月	気づき 38件 事故 0件	11月	気づき 38件 事故 0件	12月	気づき 38件 事故 0件
1月	気づき 36件 事故 4件	2月	気づき 46件 事故 0件	3月	気づき 36件 事故 3件

改善項目

- ◆車椅子用体重計導入。
- ◆桃太郎ケア導入。
- ◆アラーム導入。
- ◆車椅子介助用導入。
- ◆車椅子名前と置き場所設置。

☆身体拘束廃止委員

会議・・・2カ月に1回

研修会・・・4月虐待と思われる事例・6月虐待と思われる事例集計結果

8月事例より考える-10月他の事例より考える・12月1年間の振り返り・1月身体拘束標語募集・2月標語公表

D : 他施設交流にて井の中の蛙予防

コロナ禍の中で、他施設交流はできませんでした。しかし、他施設の方が、見学に来られた。パーソンセンタードケアに感銘していただいた。

E : エルダーメンター導入にて新人の育成を図る

新人マニュアル(チェック式)に沿って新人指導を行うことにより、どこまでの指導ができていないか、明確することができた。

④ 自己覚知の合理性を高める



A : 自分の介護観揭示

食堂に、介護観を揭示することにより、同じ職場で働く職員が、どんな介護観をもっているかもわかるようになる。

また、介護観と一緒に、入居者さまと接している職員の笑っている顔写真を掲示することに

より写真でしか見ることのできない、入居者さまからいただいている自分の笑顔を見ることができる。

B：タイムカード横に鏡を設置しスマイルチェック

あえて小さな鏡を設置することにより、鎮に顔を合わせて笑顔を見ることを意識づける。

C：年間自己目極自己評価の実行

毎月、ミーティングの振り返りシートをもとに、自己評価を行っている。

⑤ 若年認知症支援



A：若年認知症の人を支える会に参加

コロナ禍で参加を中止した。

B：若年認知症の人を支える家族の会に参加

SNS の情報をもとに、ご家族さまが感じておられることを聴く機会を設けた。

家族さまが、やすらぎのさとの見学に来られた。

C：RUN 伴に参加

コロナ禍で RUN 伴自体中止となった。

⑥ 域密着にて社会参加



A：町内の行事に積極的に参加

コロナ禍で入居者さまと一緒に参加はできなかった。

しかし、法人としての参加は、行った。また、船岡神社の氏子に加入した。

B：毎日の散歩を活用して安全見守り隊実行

天候が悪い日以外は、13時30分～14時30分の間に腕章をつけて町内の見守りを遂行。

地域の方との触れ合いを感じるひと時である。また、春夏秋冬の季節を肌で感じる時間ともなる。季節感を感じることは、認知症症状の悪化の防止にもなっている。

C：グループホーム行事に地域の方を招待する

コロナ禍で招待する行事は中止となった。

D：ボランティアの協力を得る

庵符グループにより音楽会を開催していただいた。

⑥社会啓発活動



A：SNS 発信

毎日、Facebook にて、日々の出来事、小さなことから大きなことまで発信している。認知症になっても笑顔で過ごすことができることを多くの方々に知ってもらえる一つとなっている。

B：介護甲子園に参加

第十回介護甲子園にエントリーを行った。結果 8219 事業所の中からベスト 30 に選ばれた。

今回は、感染症対策部門で入賞した。第 2 次予選は敗退したが、8 年連続ベスト 30 に入った事業所は、やすらぎのさとのみとなっている。

C：入居者と伴に挑戦活動

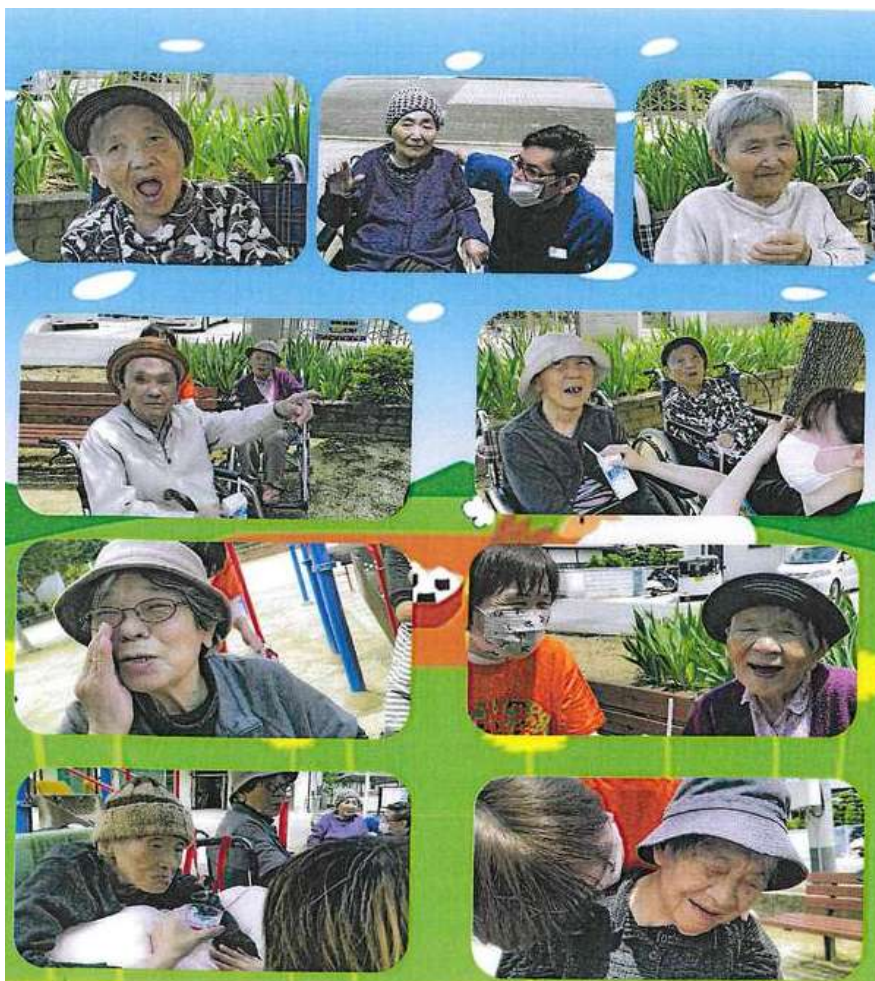
令和2年度より出張カフェ空に依頼して2か月に1回入居者さまに店長となっていただいている。

6月に市民出張講座に入居者さまと一緒に開催した。

2月に脳梗塞を発症した入居者さま、医療では、寝たきりで植物状態といわれたが、少しずつリハビリを行いレベルアップに挑戦している。

D：実習生の受け入れ

コロナ禍ですべて中止となった。



ありがとうございました。